



私たちはより高い次元の正義を考えることで、衝突を招きやすい「自分の正義」を超えることができます。

でしようか。

歴史上、「聖人」と呼ばれ、人類の教師と称えられてきた人々（ソクラテス、イエス、釈迦、孔子などは、宇宙自然の偉大な働きを真摯に学び、そこから人間が生存し、発達するための道を明らかにしてきました。

それは自分本位の正義を超えて、より高い次元に立ったものであり、モラロジーでは、これを「宇宙的正義」と呼んでいます。

これをもう少し具体的に見ていくと、そこには、あらゆるものが相互に関係し合う世界観が示されています。

森羅万象が互いに連絡し、支え合っていることを悟り、その中のすべてを自分と同じように尊重し、全体の調和と発展を図ることをめざす時、「正義」は特定の個人だけを守るものではなく、すべてのものをわけ隔てなく、公平無私に育てる働きとなります。

私たちがこうした働きの中で生かされて生きていることに気づく時、自分本位の正義から離れ、視野の広い正義に向けて進むことができるのです。

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は「宇宙的正義」について図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

「自分の正義」を超える

——より高い次元に立って

きのしたじょうこう
教育研究室研究助手 木下城康

例えば、ここに一つのケーキを取り合って争う兄弟がいるとします。

それぞれに「自分のケーキだ」と主張していますが、なかなか解決しません。しかし、兄は駆け寄ってきた母親から「兄弟は仲良くしてほしい」と言われ、渋々ではありますが、母親の気持ちを慮り始めたようです。「自分の言い分」は捨てられなかったようですが、どうにか解決できないかと考え始めたのです。

これは子供に限った話ではありません。「正義」は「思いやり」と並んで道徳の大きな柱ではありますが、その使い方には工夫が必要です。一般的に、正義は行う人によってその内容が変わります。私の考える「正しさ」があなたや他の人たちにとっても、いつも正しいとは限らないのです。

そのため、正義を主張すればするほど人を責め、自他共に傷つけてしまう可能性があるので。しかし、だからといって正義がなければ、社会がまとまらないことも明白な事実です。

では、こうした「自分の正義」を超えるためには、どのように考えたらよいのか。